



10月になっても夏日があり、気温が高めに経過しています。しかし、秋の深まりの色合いが農園でも目にできるようになりました。北門では金木犀の香りが漂っています。

学生の芋掘りも進んでいます。既報に書きましたように今年の芋は小ぶりな傾向ですが、掘り進める学生は芋を見つけるだけで喜びの声を上げています。



高温と乾燥で経過した今夏。9月からの実習で学生の中に帽子が広まりました。貸し出し用の帽子をかぶる光景が日々見られました。暑かった夏の影響か、強い日差しを少しでも避けようとするためか、昨年と比べて帽子の着用が広まっていました。



前号で播種・定植を終えた畑に複数のキアゲハが舞い降りたことをお伝えしました。

その幼虫が大量発生して、ウイキョウ（フェンネル）の葉を食べつくしました。それだけに止まらず、農園の教室テラスにまで這っていました。今はどこかで蛹化した様で目に留まることはなくなりました。畑での光景、ウイキョウでの姿、ともに多くの成虫や幼虫を見ることは稀有なことでは。



農園に1株のユッカがあり、今年は3本の花茎が花開きました。和名は千寿蘭、園芸種として「青年の木」とも呼ばれます。

昨年、花茎は1本でしたが株の成長とともに花茎も増えました。

また、ジョウビタキやモズの姿も目にするようになりました。

秋の訪れというか、冬の前兆とでもいうのか、ジョウビタキやモズの姿も目にするようになりました。まだ、日中は日差しで気温が上がりますが、季節は冬へと向かっています。

